

プロジェクト「Theatre E9 Kyoto」
Step2 中間報告(2018年4月現在)

2019年春、 京都に100年つづく 小劇場を!

実現のために、
さらなるご支援を
お願いいたします!



京都駅東南部の東九条地域に、
新たな劇場「Theatre E9 Kyoto」を創設するプロジェクトです。
これまで多大なご支援をいただきました。
しかしながら、目標達成までまだまだ事業費が足りておりません。
Step2の中間報告を以下にまとめております。
皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

〈非営利徹底型法人〉一般社団法人アーツシード京都
後援：京都商工会議所

2018.4.14

Step 1

みなさんの力をいただいて 第一段階をクリア!

クラウドファンディング (step1) 達成! 多くの方からのご支援 ありがとうございました!

京都の5つの小劇場の閉鎖を受けて、立ち上げましたプロジェクト「Theatre E9 Kyoto」。巨額の資金をご支援頂くために、3つのステップに分けて、2017年6月にプロジェクトはスタートいたしました。

Step1(2017年7~9月期)では、クラウドファンディングサイト「Readyfor」にて、日本の国内及び国外、10代~70代までの616人の方から、目標額14,000,000円に対して19,282,000円のご支援を頂きました。

クラウドファンディング会社への手数料等をひかれた15,668,605円を資金に、建築許可申請に必要な、調査・書類及び設計図面作成費11,642,400円を捻出いたしました。ご支援を頂きました皆様に、改めまして深く御礼を申し上げます。



記者会見の様子(2017年6月26日)



現況建物の調査の様子(2017年10月)



調査報告書と設計図面

アトリエ劇研がなくなると聞いて、少なくとも危機感を覚えました。そしてこの劇場の話を読んでいてもたってもいられませんでした。京都の表現者がいつも使える劇場としてこれからも京都の演劇シーンを盛り上げていけるような革新的な場所としてなっていればと思います。微力ながら応援させていただきます。(Yさん)

アートスペース無門館~アトリエ劇研で芝居と出逢いました。相次ぐ小劇場の閉鎖に時代の流れを感じていましたが、新しいプロジェクト企画を見つけ、応援せずにはいられませんでした。頑張ってください!(Kさん)

新しい劇場ができる。遠くにながらその支援のお手伝いができる—このような機会をいただけたこと、とても嬉しく、感謝しております。劇場がひらくその日を楽しみにしています。(Pさん)

京都での活動は、カンパニー設立時からできるだけ継続し、つなげていこうと思っていました。それも「場=劇場」があったからできたこと。これからも温かく大きな場所を作ってください。必ず、行きます。(YPさん)

小劇場は、文化の源流であると思います。日本の芸能史を学ぶ中で、特にそれを感じています。また、私の先祖代々の活動にもそれを見ることがあります。色々と皆様に教わり、場を与えていただけていますが、それを後につないでいく活動に、私たちも支援していきたいと思います。文化のバトンリレーはとても大事だと思います。どうかこれからも頑張ってください。(NYさん)

自分の子どもが憧れる劇場を応援したいです。頑張ってください!(YNさん)

みんなで作る、 長く愛される広場に

支援者の方々のメッセージより



これからも、演劇を通じてたくさんのお会いがあることを望んでいます。京都がいつまでも素晴らしい文化都市でありますように。(NMさん)

劇場は地域の街の灯りです。実現することを心から願っております。(Fさん)

東九条にたくさんの方が来られ、地域の活性化につながることを願っています。ぜひ成功させてください。楽しみにしています。(Nさん)

京都は伝統ある古都でありながら昔から新しいものをとりこむ気風があります。また、学生さんや若い方の研究や勉強や創作への意欲のあふれる街であり、応援したいと思いました。劇場ができたら見に行きます。(KSさん)

京都のシアターの重要性は、舞台のフィールドのみならず、美術のフィールドにおいても、とても重要な発信地です。これを守るといことは、本当に重要なことだと感じます。(TIさん)

東九条が京都の芸術文化にとり大事な場所になっていくことに大きな喜びと期待を感じています!(Iさん)

伝統と進取の精神を合わせ持つ京都らしい演劇活動の拠点を作り上げてください!(TKさん)

表現の場としてだけでなく、表現者を育てるゆりかごのような存在になりますよう。幅広い年代に愛される、京都小劇場文化の発信地となることを期待します!(Nさん)

Step 2

(2017年10月～2018年5月期) 中間報告

予算、設計、スケジュールを変更します。

①資金及び予算について

プロジェクト総額
85,500,000円から
約100,000,000円に!

資金につきましては、クラウドファンディングのほか、直接のご支援及び、お約束をいただいております総額は約7,000万円です。

2018年3月末日時点で、Step1の3,400万円 Step2の2,000万円は達成いたしました。

しかしながら、昨今のオリンピック・ホテル建設などによる建築費の高騰と、当該建築物の詳細な調査による補修工事の必要が明確になりましたため、工事費が当初予定よりも高くなる見込みです。当初8,550万円の予定をしておりましたが、現時点では、工事費、設備費、調査費、運営費などを含めた総事業費を約1億円と見直し、設計及びスケジュールを組み直しております。

既に相見積もりを2社から提出いただいております。本年、6～7月頃に、入札にて事業費及び事業者を決定する予定をしています。工事費につきましては、今夏、改めてご報告をいたします。

②設計について

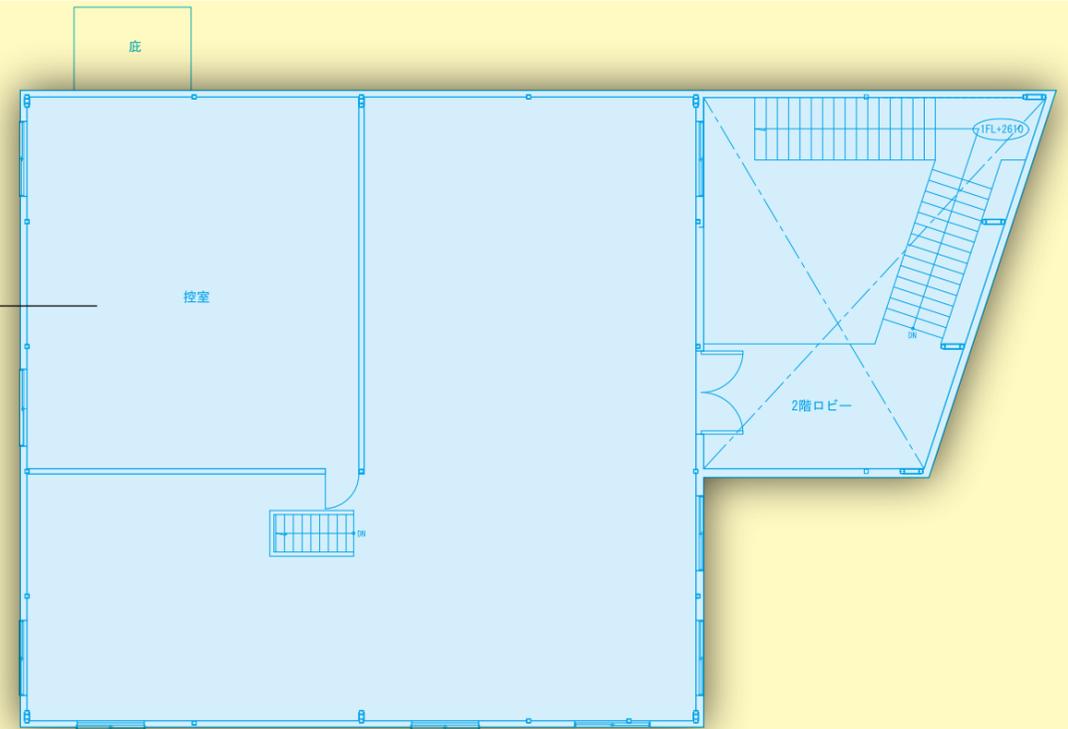
劇場機能に
特化した設計に
変更します。

当初、カフェやギャラリーなどの複合施設を想定しておりましたが、工事費の高騰をうけて、滞在制作も可能な劇場機能に特化しています。2階部分は広いスペースがありますので、倉庫利用の他、工房などの設備を想定しています。

2階への階段を新設することができたら、ギャラリーなどの可能性も考えられます。

2F
(244㎡)

控室 (72㎡)
ゆとりのある広い空間。

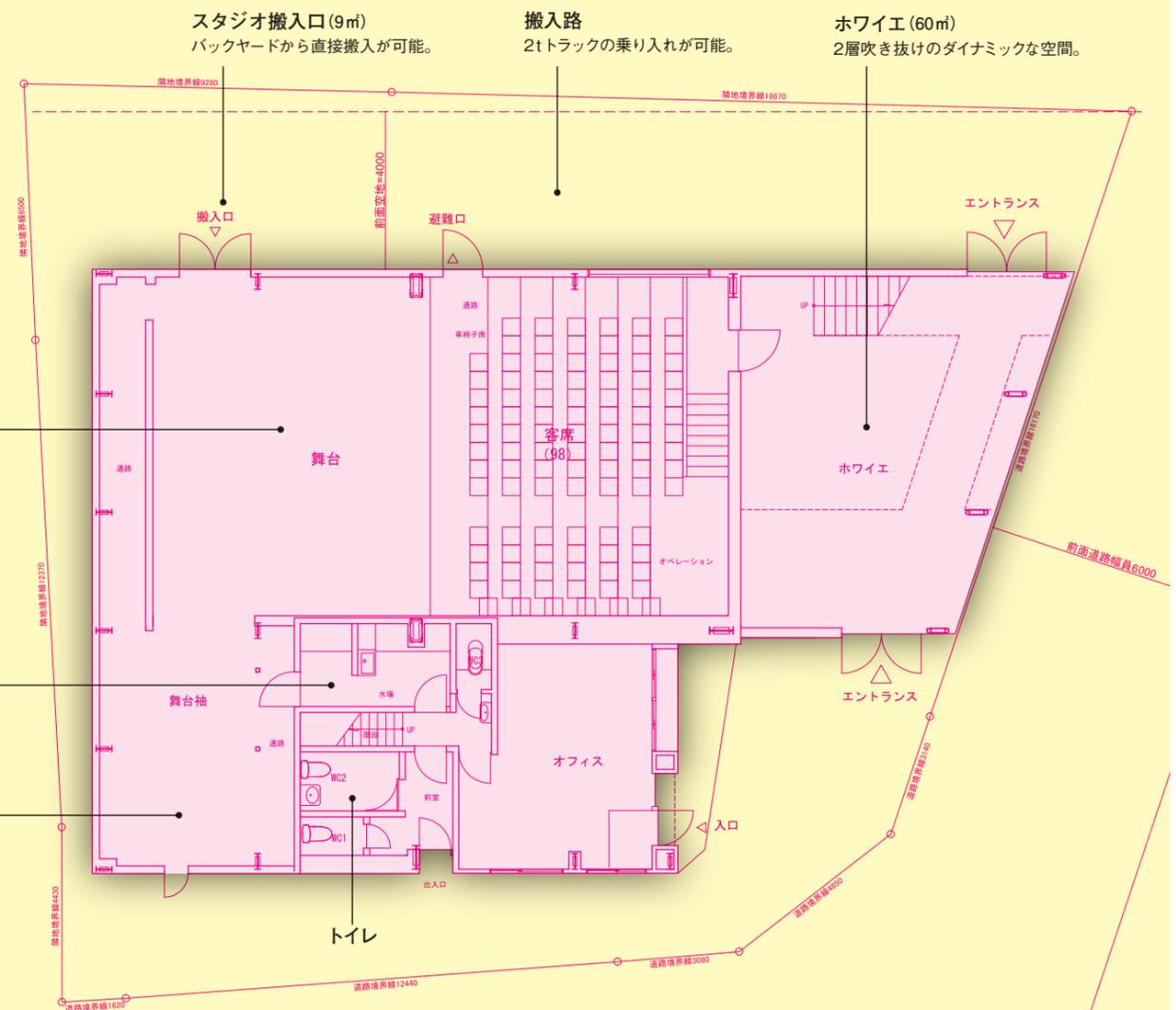


1F
(293+9㎡)

劇場 (135㎡)
客席数は100席。縦使い、横使いなど用途に合わせてレイアウトが可能。演劇・ダンス作品の上演はもちろん、映像や美術作品の上映・展示もできる自由な空間です。

楽屋ユーティリティ
洗面、トイレ、キッチン、シャワーを装備。

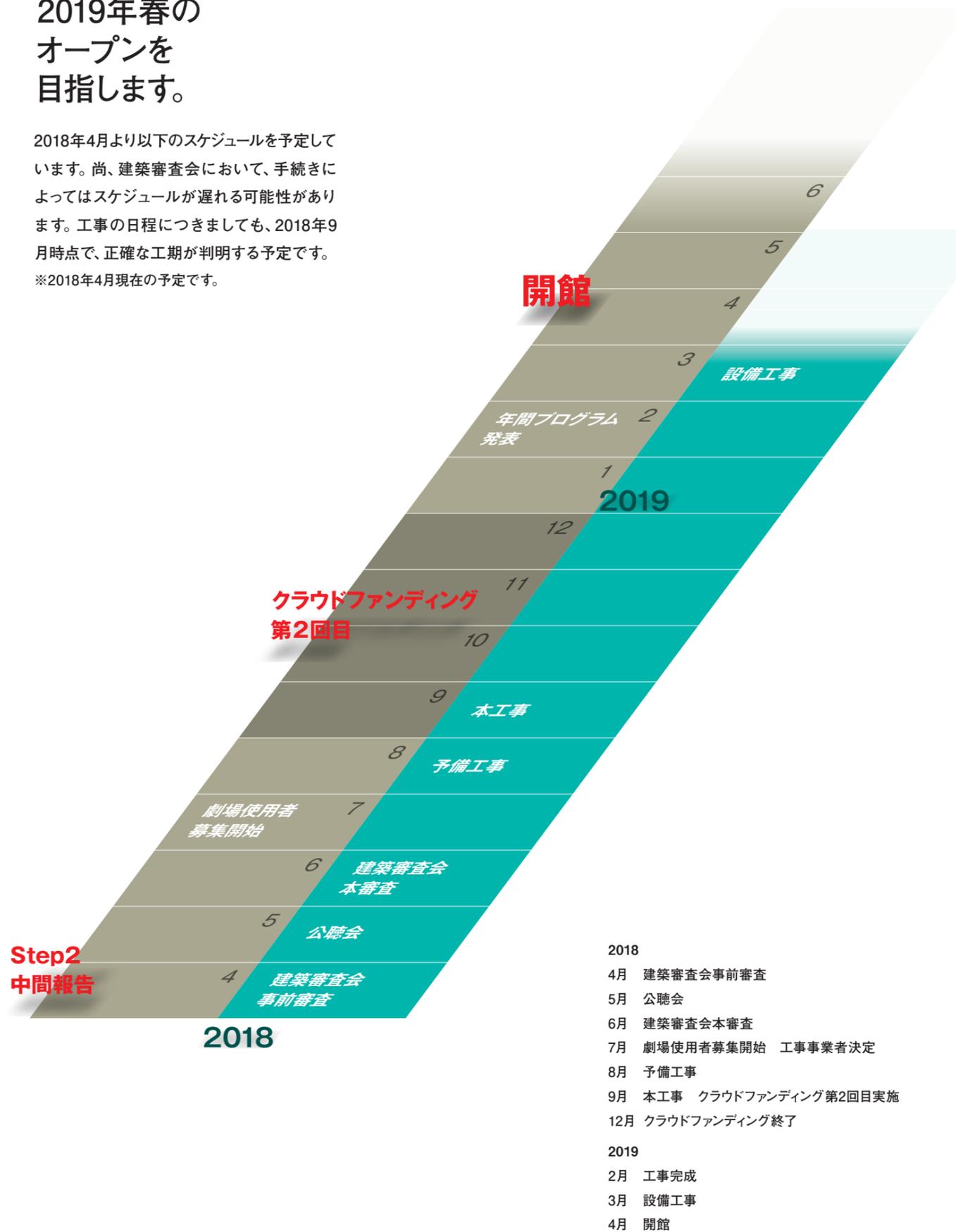
楽屋・バックステージ (30㎡)



③スケジュールについて

2019年春の
オープンを
目指します。

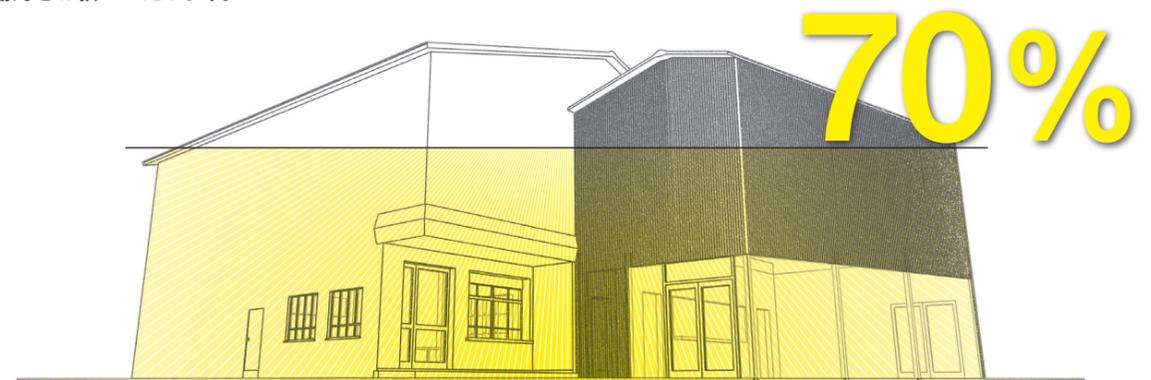
2018年4月より以下のスケジュールを予定しています。尚、建築審査会において、手続きによってはスケジュールが遅れる可能性があります。工事の日程につきましても、2018年9月時点で、正確な工期が判明する予定です。
※2018年4月現在の予定です。



Step 3 (2018年6～12月期)

目標達成までおよそ30%!
さらなるご協力をお願いします!

2018年4月現在において、ご支援を頂いた、または、お約束を頂いている総額はおよそ7,000万円です。総事業費約1億円の見込みに対して、およそ3,000万円ほどが不足しています。現在、アーツシード京都のホームページにて、1口5,000円からの寄付をお願いしております。また、2018年9月～12月の期間で、第2回目のクラウドファンディングも予定しております。劇場建設にむけて、さらなる、ご支援とご協力をお願いいたします。



クラウドファンディング
(2018年9月～12月)

クラウドファンドの第2回目を今秋に予定しています。設備・備品等の経費を目的に行う予定です。詳細は、今夏改めてご案内いたします。

Ready for
2018年9月、第2回目開始!

直接寄付
(受付中)

アーツシード京都への直接寄付は、随時行っております。以下までお気軽にご連絡下さい。

Arts Seed Kyoto
アーツシード京都

<https://askyoto.or.jp/donation/>
TEL: 075-744-6127 (平日10:00～18:00)
Email: info@askyoto.or.jp

※一般社団法人アーツシード京都が、当該土地建物の所有者である株式会社八清と賃貸借契約を結び、複合文化施設「Theatre E9 Kyoto」を運営します。
※頂いたお金は、いかなる場合(例えば当該複合文化施設の全部または、ギャラリーなど付属する一部施設が建築できなかった場合など)においても、ご返金できません。予めご了承ください。

京都駅直近に 新たなアートゾーンが誕生します。



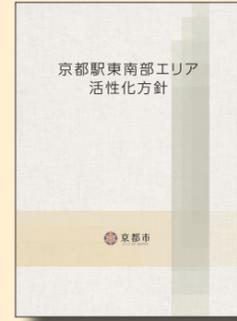
京都駅東南部では、2023年度に京都市立芸術大学の移転が予定されています。これを受けて京都市は南側に隣接する東九条地域を主な対象とした「京都駅東南部エリア活性化方針」を発表しました。今後、このエリアで「芸術」と「若者」をキーワードに様々な活性化事業が行われていくでしょう。「Theatre E9 Kyoto」は、東九条南河原町に位置します。



川沿いの桜並木と建物現状

**Theatre E9 Kyotoへは
3つの駅からアクセスが可能！**

- 京都駅八条口 (JR、近鉄、市営地下鉄) …… 12分
- 九条駅 (市営地下鉄) …… 11分
- 東福寺駅 (JR、京阪) …… 8分



京都市広報資料
「京都駅東南部エリア活性化方針」
より

「京都駅東南部エリア活性化方針」の策定に当たって



京都市長 門川 大作

東九条地区を中心とする京都駅東南部エリアでは、住環境をはじめ、様々な歴史的課題がありました。地域の皆様の熱意と御努力、そして行政をはじめとする関係者の取組により、大きく改善が図られてきました。

また、文化庁の京都への全面的な移転が決定し、京都から文化芸術の力による地方創生を進めることが大きく期待される中、京都駅に近接している本エリアは、平成35年度の京都市立芸術大学の移転も見据え、世界を視野に入れた新たな文化行政を推進していくうえで、大変重要な地域となっています。

こうした状況を踏まえ、本エリアで培われてきた地域力と文化芸術の力を融合し、京都駅東部、西部エリアの活性化と連動させることで、文化芸術に関心のある若者が国内外から集い、学び、定住し、交流して、自らを高め合い、新しい価値を創造し、世界中の人々を惹きつける。そのような京都から日本を元気にするモデルとなるまちづくりを地域の皆様と共に進める。この強い決意の下、「京都駅東南部エリア活性化方針」を策定しました。

この活性化方針では、長期的な展望に立った目指すべき将来像と、おおむね今後8年間で取り組むべき推進項目を取りまとめました。これまで地域が培ってきた多様な人のつながりに、新たに本エリアで活動する人や団体などを交え、思いを伝え合い、知恵と力を結集し、スピード感を持って取組を進めてまいります。

結びに、「京都駅東南部エリア活性化方針策定委員会」の皆様をはじめ、計画策定に携わっていただきました関係者の皆様、パブリック・コメントに貴重な御意見や御提案をお寄せくださいました市民の皆様、事業者・団体の皆様に、心から御礼申し上げます。

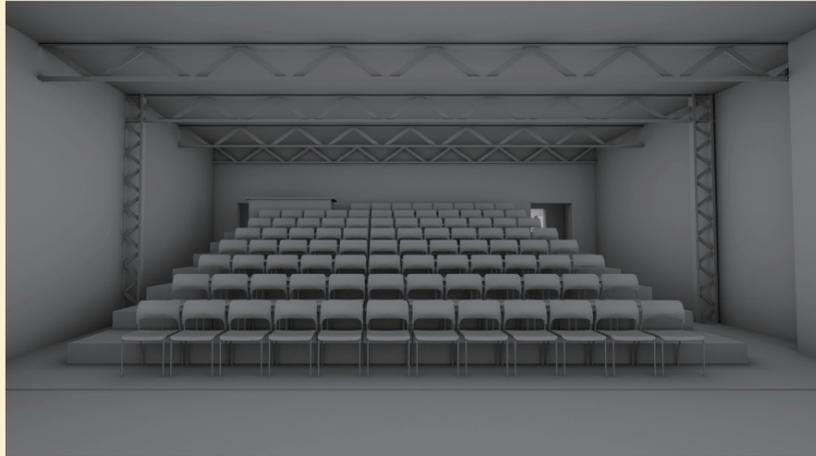


朝日新聞(2017年7月31日)より



京都新聞(2017年11月15日)より

作品をつくる・ 地域をつくる劇場に!



完成予想図 自由にレイアウトができる100席の小劇場



劇場予定スペース



ホワイエ予定スペース

100席サイズの劇場、10mの高さのあるホワイエ、アーティストがくつろいだり、稽古ができる、70平米の控室、大道具の制作も可能な広い工房。ゆたかな空間をいかして、舞台芸術の創作をじっくりと行える環境がここにはあります。これまで、京都にはなかった、そこで滞在しながらしっかりと作り込める創造性あふれる施設にしていきます。作品の創作、発表以外にも、レクチャーやワークショップを通じて、人々が集い交流する劇場をつくります。



東九条夏まつりにて
狂言「柿山伏」を上演
(右:茂山あきら、左:茂山童司)

設計担当建築家より「ひとりの人間がこのなにもない空間を歩いて横切る、もうひとりの人間がそれを見つめる一演劇行為が成り立つためには、これだけで足りるはずだ」ピーター・ブルックの有名な書き出しで始まる"The Empty Space"は、私には、逆説的に劇場に必要な空間の在り方を示唆しているように思えてなりません。50年という歳月を重ねた鉄骨造の作業場兼倉庫。アングル材を組上げたトラスのフレームが力強く輪郭を描き、積み上げられたコンクリートブロック空間を包み込んでいます。この場に息づいている、強さ、熱さ、豊かさに満ちた一見「なにもない空間」は、まさに創造の場となる小劇場にふさわしいと確信しています。

木津潤平 (建築家 Theatre E9 リノベーション設計担当)

1969年愛知県生まれ。木津潤平建築設計事務所代表。東京大学にて香山壽夫氏に師事。96年同大学院修了。舞台空間のデザインも多数手がけ、野外空間等における「場の力」を読み込み、それを最大限に活用して劇場空間へと再構築するアプローチで、戯曲の世界観を表現するスタイルを確立。建築においては、米国建築家協会 Japan Design Award 大賞、英国 Architectural Review Awards 等受賞、海外からも高い評価を受けている。近年では、劇団「地点」の拠点「アンダー・スロー」設計、SPAC「マハーパラタ」(アヴィニヨン演劇祭公式招待作品)仮設野外円形劇場デザイン・空間構成などを手がける。



わたしたちも応援しています!



御厨 貴
東京大学名誉教授

京都の小劇場に、この10年は随分と足を運んで来ました。立誠小学校やアトリエ劇研などで、若い演劇人たちが繰り広げる創作の舞台を、時間の許す限り見ました。若さゆえの大胆さ、若さゆえの未熟さ、若者たちの発する息遣いが、小劇場狭しとばかり見る者に迫って来ます! 終わると廊下に皆出てきて、作った側と見た側の短いながらも真剣な舞台を巡るやりとりの輪が広がります。京都小劇場ならではのこの光景が、いつもいつも好きでした。

でも、そんな交流が繰り返される小劇場が無くなると聞きました。寝耳に水とはこの事です。ビックリ仰天。あの若者たちの創造の舞台が消滅の危機にあり、京都演劇人たちが路頭に迷う事態を、黙って手を拱いてボーっとしてるわけにはいかないでしょう!

そこで、このたびの打開策、プロジェクト「Theatre E9 Kyoto」の試みを伺って、これは全面支援しなければと決意しました。もちろん私は演劇にはズブのシロウトです。しかし、ひたむきな京都小劇場の人達の熱い思いに触れて、シロウトだからこそできる支援もあるかもしれぬと考えました。

プロジェクトに関わる皆さんと、プロジェクトの進行プロセスを伴走しながら、時に「頑張れ!」と声かけをし、その完成までを是非見届けたいのです。

どうぞ「我こそは」という方は、私たちと共に京都小劇場の灯火を掲げてみて下さいませんか。共に京都小劇場の未来に、想いを馳せながら。



西村孝平
株式会社 八清
代表取締役

昭和56年8月に株式会社 八清の関連会社がこの九条倉庫を購入した時の事を思い出します。先代の八清の社長(私の父親)の所へこの建物(倉庫兼居宅)を購入してほしいと信託銀行の不動産部の担当者から依頼を受けた時、先代は「一か月間、他にあって買い手が見つからなければまた来てください」と言って、結局1月後に値切って購入したエピソードがありました。

それほど人気のないこの建物が今、劇的に変化していこうとしています。

東九条の京都駅東南部エリアは京都市立芸術大学の崇仁地域の移転を契機とした文化芸術都市・京都のシンボルゾーンを創出する町づくりの取り組みが行われようとしています。このエリアに新たな民間の劇場ができる事は芸術大学との相乗効果を期待でき、エリアの活性化に大いに貢献できる事と確信しています。

折しもアトリエ劇研をはじめとする4つの民間劇場と1つの公共施設の閉鎖が同時期にきまり、京都における舞台芸術の創造環境は極めて厳しい状況を迎えようとしている時に弊社の倉庫が新たな活用の場としてリノベーションされ、劇場にコンバージョンされる事は何か運命的な気持ちであります。

私どもは不動産会社として京都市の空き家活用プロジェクトに参画し、下京区に「さらしや長屋」と言う子育て支援の賃貸長屋を作らしていただきました。幸いここ東九条東南部には市有地を含め多くの活用できる空き地がたくさんあります。北側の崇仁地区の京都市立芸術大学と南側のTheatre E9 KyotoはJRがバリアを作って分断されていますが、鴨川と高瀬川の公共空間を利用してうまく有機的に繋ぐことによってこのエリアを若者・文化アートモデルとして牽引していこうではありませんか。

是非、皆様のご協力により、民間の手による素晴らしい地域活性のための100年続く劇場ができる事を祈っています。よろしくご協力申し上げます。

京都に100年つづく小劇場を！



小劇場の危機－Black Boxの消滅－

文化芸術の華やかにみえる京都ですが、今、舞台芸術の創造環境は危機を迎えようとしています。2015年から2017年にかけて5つの小劇場が閉鎖いたします。所有者の高齢化や建物の老朽化などが主な原因で、構造的な転換点を迎えております。とりわけ、若い人でも低料金で利用でき、かつ、黒い箱形のブラックボックスと呼ばれる劇場形式は、芸術文化都市をかかげる京都から完全に消滅してしまいます。

100年の劇場をつくる

100年の劇場をつくる－現在の危機的な状況を受けて、私たちはそのような目標をもつようになりました。芸術や文化は、一朝一夕では実を結びません。継続されるその100年の歳月の中からは多くの人材が育ち、それらの人の手によって、時に世界的な評価を得るような歴史的な芸術作品が生み出されていくものと思います。市民の皆様にも、アーティストにも長く愛され、誇りに思ってもらえるような劇場をなんとしても作りたいという思いでいっぱいです。

芸術の種をまき、古都を彩る花を育む

2017年3月、京都市より「京都駅東南部エリア活性化方針」と題して、東九条地域を「若者」と「アートの実践」によって、活性化させる方針が打ち込まれました。地域の方々とも交流を密にして、人口減少傾向にある東九条地域の活性化に貢献して参ります。

私たちが植えようとしている、芸術の小さな種が、時を経てやがて、悠久の古都を彩る花となればと願っています。

ご支援とご協力をお願い

日本の舞台芸術においては、全国各地の民間の小劇場がその底辺を支えています。いずれも極めて公共的で、非営利の事業です。小劇場の建設を支援する公的な制度は、残念ながら存在しません。私たちだけでは解決しがたく、広く市民の皆様からの寄付が頼りです。皆様におかれましては、どうか私どものプロジェクトの趣旨にご理解を賜りたく、ご支援とご協力の程、切にお願いを申し上げます。

劇作家・演出家
元アトリエ劇研ディレクター
一般社団法人アーツシード京都 代表理事

あごうさとし

あごうさとし

1976年12月16日生まれ。80年代後半から90年代にかけて香港で過ごす。同志社大学法学部卒業。「複製技術の演劇」を主題にデジタルデバイスや特殊メイクを使用した演劇作品を制作する。2014年9月、アトリエ劇研ディレクターに就任。2014-2015年、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として、3ヶ月間、パリのジュヌヴィエリ国立演劇センターにおいて、演出・芸術監督研修を受ける。京都国際舞台芸術祭2016 SPRINGにおいて、ショーケースキュレーターを務める。同志社大学嘱託講師、京都造形芸術大学非常勤講師。若手演出家コンクール2007最優秀賞受賞。2010年度京都市芸術文化特別制度奨励者 利賀演劇人コンクール2012奨励賞受賞。2013-2014公益財団セゾン文化財団ジュニア・フェロー。平成29年度京都市芸術新人賞受賞。



茂山あきら

1952年6月12日生まれ。本名・晃。二世茂山千之丞の長男。父および祖父三世茂山千作に師事。3歳のとき『以呂波』のシテで初舞台を踏む。1975年『三番三』および『釣狐』、1994年『花子』を抜く。2001年より狂言と新作落語のコラボレーション＜落言(らくげん)の会「お米とお豆腐」を結成し、全国津々浦々で活動中。その他オペラや新劇、パフォーマンスなどの企画・構成・演出なども手がけるマルチな舞台人間として日本中を飛び回っている。また、千之丞のバイオニア精神を受け継ぎ、1981年に欧米の現代劇と日本の古典芸能を融合した「NOHO(能法)劇団」をジョナ・サルズと共に主宰。ベケットの不条理演劇、英語による海外公演も数多くこなし、国境も言葉もジャンルも飛び越えたワールドワイドな演劇活動を展開している。著書に「京都の罫」(KKベストセラーズ)がある。第31回京都府文化賞功労賞受賞。

紫陽花の頃、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は私たちの活動に一方ならぬご協力を賜り、心よりお御礼申し上げます。

さて、お聞き及びの事と存じますが、京都に若者たちの舞台活動を上演する場所がなくなろうとしています。公的な場所としては市民会館や各公民館、大学施設などがあるのですが、いずれも使用のための制限が有り、又使用料が高価であったりします。つまり若い人たちが自由に使うには難しいのが現状です。これまで、アトリエ劇研などのブラックボックスと言われる入場者が100人前後の小屋が有ったのですが、これが相次いで閉館されます。そこで今回、老婆心ながら私たちは新しい若者のための劇場を建設いたす事を思い立ちました。

古典の役者である私が、なぜこのような劇場を建設いたすのかと思われるお方もいらっしゃるでしょうが、京都は古くから文化を育んできた土地柄です。我々の古典の分野では、ほぼ全てのジャンルが京都には存在いたします。このような街は、東京と京都しか有りません。芸術が豊かな土地柄と言えるでしょう。その芸術を長年にわたり伝え得た理由は、底辺の広さです。京都には多くの大学が有り、そこでは若者の演劇やダンスなどの舞台上演が今も盛んに行われています。舞台活動を行なっている人々は他都市から来られた人が多数おられます。無論、演劇やダンスなどの活動の初心者である彼らの上演作品は稚拙なものもあります。しかし、彼らの行なっている事はこれからの京都を支える大きな力とも言えます。ふたたび京都の文化を再生し、京都発信の文化を作る原動力となるのではないのでしょうか。

古いものを守るには、新しい活動が必要です。新しい活動が古いものを守り、そしてその新しいものが、また古典となっていくのです。京都が永く文化都市であり得たのも、この悠久の積み重ねが有ったからです。

幸いこの度の新劇場の建設には、御厨先生 株式会社八清社長、西村様他多数の皆様のご賛同を得ることが出来ました。

しかし新しい劇場を作るには多額の資金が必要です。何卒皆様には京都の文化を守るための浄財にご協力を賜るよう伏してお願い申し上げます。

(2017年6月吉日)

狂言師
一般社団法人アーツシード京都 理事

茂山あきら

一般社団法人アーツシード京都 設立の趣旨

「文化芸術都市」を掲げる京都市では、2016年、ロームシアター京都がリニューアルオープンし、国内外の多様な劇場芸術に市民が触れる機会は大きく増大しました。2010年から

スタートした「京都国際舞台芸術祭 KYOTO EXPERIMENT」も、日本を代表する国際舞台芸術祭に成長しつつあります。しかし、一見華やかに見える京都の現代舞台芸術は、実のところ、今大きな危機に直面しています。2017年8月末までに、これまで京都の劇場文化を牽引してきた日本を代表する民間劇場「アトリエ劇研」(1984年開場)をはじめとして、4 つの

民間劇場と1 つの公共施設が、ほぼ同時期に、一挙に閉館してしまうからです【※1】。「小劇場」と呼ばれるこれらの劇場は、「観客動員数」のような定量的評価に還元できない「創造環境」

のかけがえのない基盤としての役割を地域文化に対して果たし、劇場文化における数多くのリーダー的な芸術家・舞台技術者をこれまで輩出してきました。したがって、こうした状況を放置しておくことは、若い世代の人材流出(専門家)や劇場離れ(観客)を加速させ、最悪の場合、将来における地域の

劇場文化の空洞化に直結することになります【※2】。こうした危機的状況に対処すべく、わたくしどもは現在と未来のアーティストと市民にむけて、新たな非営利型社団法人「一般社団法人アーツシード京都」を設立し、舞台芸術と劇場施設を中心とした新たな複合文化施設を創設します。

【※1】 アトリエ劇研は、1984年に、仏文学者の波多野茂彌が自宅を改装し、アートスペース無門館として開館。1996年に、アトリエ劇研と改称し、2003年にNPO法人格を取得、現在に至っている。土地建物の所有者である館主の高齢にともない、2017年8月末日をもって、閉館を予定している。2015年度は、西陣ファクトリーガーデン・坪シアタースワンの2館が、2016年度には、スペースイサン東福寺が、2017年度はアトリエ劇研・旧立誠小学校が閉館を予定しており、この3年間で、4つの民間劇場と、1つの公共施設が閉鎖する。これにより、若いアーティストが安価に利用できるブラックボックス形式の劇場はこの都市から全て消滅する。いずれも、所有者の高齢化が主たる原因であり、正に構造的な転換点を迎えている。

【※2】 劇場閉鎖における問題点として、若い世代を中心とする作品の創作数と場所との需要と供給のバランスが極端に崩れることが挙げられる。多額の利用料が必要なロームシアター京都や、利用に一定の活動実績が問われる京都芸術センターのみでは、京都の舞台芸術における「創造環境」を支えることは極めて困難である。加えて、京都芸術センターの共催枠が削減され、さらに上演が困難な状況がある。アトリエ劇研を含む、5つの民間劇場・公共施設の閉鎖と京都芸術センターの上演共催事業の削減によって以下の問題が生じる。

(1) およそ150 演目の上演の機会を失う (2) およそのべ30000 人の観劇の機会が失われる (3) 舞台芸術を支える作家・演出家・俳優・技術者の育成場を失う (4) アーティスト・技術者の人材及び作品の他府県への流出が想定される (5) 創造環境の循環性を失い、ロームシアター・京都芸術センター、その他市内の劇場で上演できる人材が、この都市から育たなくなる可能性が高い (6) アトリエ劇研においては、空間の設備的側面のみならず、保守・技術・広報・創作上の各種のサポート・及び主催事業の計画と実行を低予算で実現してきたノウハウが失われることも、また大きな損失を予測される。

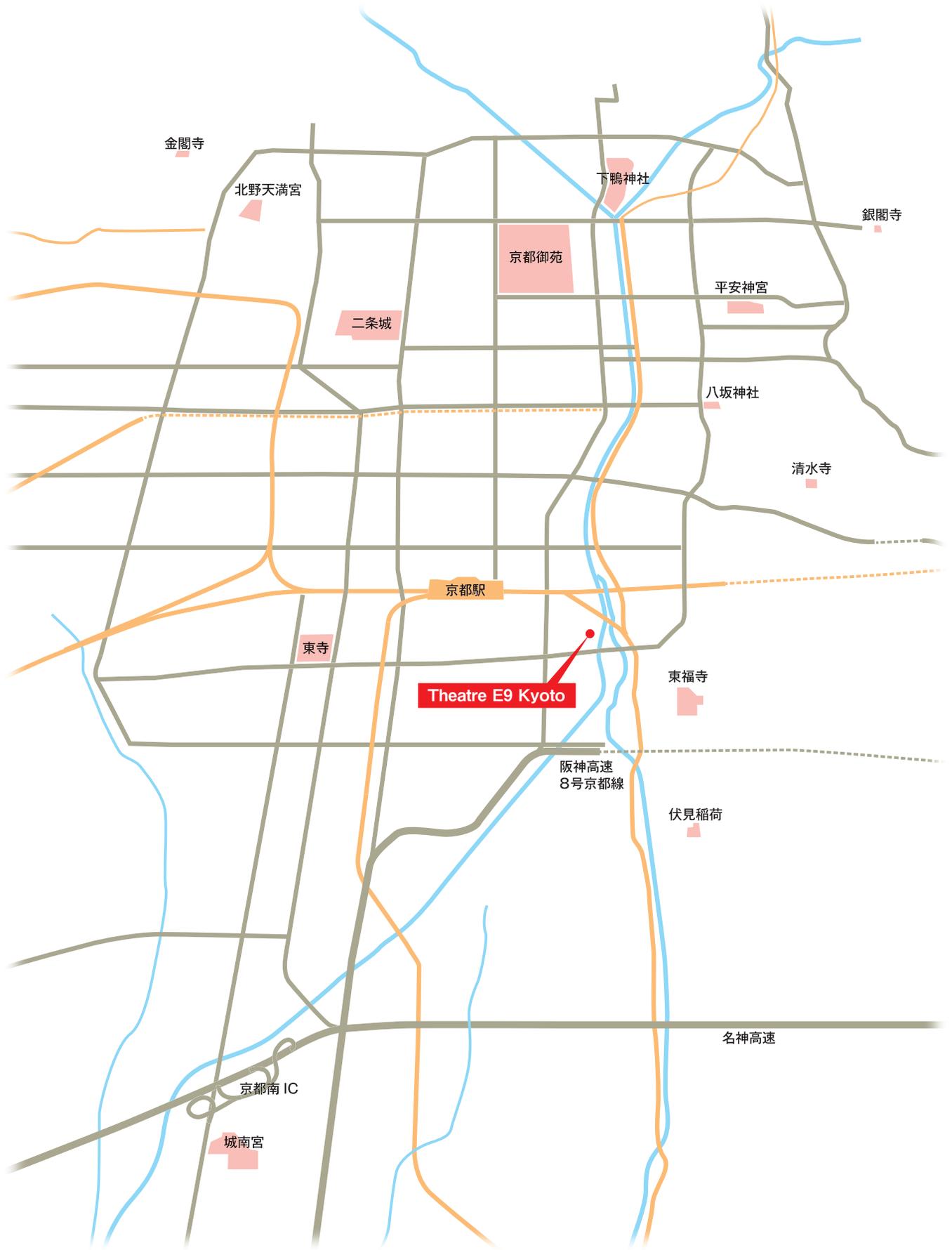
もって、「芸術文化都市」をかかげる京都において、現代舞台芸術の分野での貢献の可能性が極端に低下する可能性がある。

代表理事	あごうさとし(劇作家・演出家・元アトリエ劇研ディレクター)
理事	茂山あきら(狂言師)
理事	關 秀哉(株式会社リュウ代表取締役社長)
理事	やなぎみわ(現代美術作家・演出家・京都造形芸術大学教授)
理事	蔭山陽太(元ロームシアター京都 支配人 エグゼクティブ・ディレクター)
理事	浜村修司(舞台監督・元アトリエ劇研技術監督)
監事	町田寿二
顧問税理士	宮前恭介

呼びかけ人一覧

呼びかけ人代表 御厨 貴(東京大学名誉教授)	
(以下五十音順)	
いしいしんじ(作家)	野村政之(演劇制作者 ドラマトゥルク (公財)沖縄県文化振興会チーフプログラムオフィサー)
石井達朗(舞踊評論家 愛知県立芸術大学客員教授)	萩原麗子(京都芸術センタープログラムディレクター)
石橋義正(映像作家 舞台演出家 有限会社石橋プロダクション代表取締役 京都市立芸術大学美術科准教授)	原 久子(大阪電気通信大学教授 アートプロデューサー)
上田一博	平田オリザ(劇作家 大阪大学特任教授)
遠藤水城(東山アーティストプレイズメント・サービス(HAPS)代表)	福本年雄(ウイングフィールド代表)
大島祥子(スーク創生事務所代表)	真下武久(成安造形大学准教授)
太田耕人(演劇評論家 京都教育大学理事副学長)	松岡正剛(編集工学研究所所長)
小崎哲哉(REALKYOTO発行人兼編集長 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員)	松尾 恵(ヴォイスギャラリー代表 芸術計画「超京都」代表)
唐津絵理(愛知県芸術劇場シニアプロデューサー)	眞野 純(KAAT 神奈川芸術劇場館長)
木下伸司(音楽家)	マルクス・ヴェルンハルト(ゲーティンストゥット・ヴィラ鴨川館長)
九鬼葉子(演劇評論家 大阪芸術大学短期大学部准教授)	宮前恭介(宮前税理士事務所代表)
久保田テヅ(大阪音楽大学准教授 NPOremo代表理事)	本杉省三(日本大学理工学部特任教授)
後藤 圭(有限会社劇団かかし座代表取締役 (公社)日本児童青少年演劇協会理事)	森 公一(同志社女子大学教授)
小寺雅子(ヴィラ九条山文化アシスタント)	森山直人(京都造形芸術大学教授)
小原啓渡(ARTCOMPLEX プロデューサー)	八木 匡(同志社大学教授)
小早川保隆(音響家)	矢津吉隆(美術家 kumagusuku代表)
小堀 純(編集者)	山岡純子(ゲーティンストゥット・ヴィラ鴨川文化部)
近藤誠一(近藤文化・外交研究所代表)	山路敦司(大阪電気通信大学教授)
斎藤 歩(北海道演劇財団常務理事 芸術監督)	山下賢二(ホホホ座1階店主)
斎藤 ちず(NPO法人コンカリーニョ理事長 演出家・プロデューサー)	山本麻友美(京都芸術センターチーフ・プログラムディレクター)
佐藤 信(劇作家 演出家 WAKABACHO WHARF)	吉田由利香(京都みなみ会館館長)
下山 久(国際児童演劇フェスティバル沖縄総合プロデューサー ACO沖縄代表)	ヲザキ浩実(舞台芸術プロデューサー 公務員)
シャルロット・フーシェ=イシイ(ヴィラ九条山館長)	
ジャン=マチュー・ボネル(アンスティチュ・フランセ関西館長)	アトリエ劇研スタッフルーム
高宮知数(久留米シテンプラザ初代館長)	株式会社八清
太宰久夫(演出家 玉川大学芸術学部教授 東京演劇大学連盟代表理事)	特定非営利活動法人京都舞台芸術協会
建島 哲(京都芸術センター館長 多摩美術大学学長)	特定非営利活動法人劇研
中田 節(京滋舞台芸術事業協同組合理事長)	
仲西祐介(KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭共同ディレクター)	
仲正昌樹(金沢大学教授)	
那須佐代子(シアター風姿花伝支配人 俳優)	
西堂行人(演劇評論家 明治学院大学教授)	

(2017/09/07 時点)



Arts Seed Kyoto

一般社団法人アーツシード京都

606-0862 京都市左京区下鴨本町12番地カワミビル302

Tel.075-744-6127(平日10:00~18:00) info@askyoto.or.jp <https://askyoto.or.jp>